

■発表者プロフィール

(発表順・敬称略)

「龍馬と土佐勤王党の関わりについて」

高知県立坂本龍馬記念館主任学芸員 三浦夏樹

三浦 夏樹（みうら なつき）高知市生まれ。私立駒澤大学文学部歴史学科卒業。近世末期（江戸時代末期）が専門。論文は『土佐と坂本龍馬』など。著書には『高知県の不思議事典』（共同執筆）がある。担当企画展は「才谷屋と坂本龍馬」「それぞれの幕末-龍馬、半平太、そして以蔵-」「所蔵品展 リョウマハ生キテイル」など。

「坂本龍馬が現代に生きている～龍馬像の変遷～」

土佐史研究家 広谷喜十郎

広谷 喜十郎（ひろたに きじゅうろう）東京都生まれ。高知大学文理学部文学科史学専攻。高知県立高等学校教員、高知県立図書館職員を経て現在、土佐史研究・執筆活動中。高知市文化財保護審議会委員。2005年 神道文化賞受賞。論文「土佐の在郷浦町」「土佐の城下町」、論文・著書多数。高知市広報誌にて「高知市・歴史散歩」連載302回を超える。

「海舟の政治理念『憤言一書』を読む」

勝海舟玄孫 高山みな子

高山 みな子（こうやま みなこ）神奈川県鎌倉市在住。慶應義塾大学仏文科卒業。龍馬と海舟が出会った百年後に生まれた海舟の子孫。高知、長崎など龍馬ゆかりの地で講演活動、その鋭い視点と弁舌が人気を博している。活動のかたわら、自宅にガラス彫刻の工房を開く。フリーランスライター。

「慶応元年九月九日、龍馬は手紙をどう書いたのか？」

京都国立博物館学芸部考古室長 宮川禎一

宮川 禎一（みやかわ ていいち）京都在住。大分県生まれ。京都大学大学院修士課程修了。東アジア考古学専攻。特に韓国統一新羅時代の陶質土器が専門。著書に『龍馬を読む愉しさ』2003年臨川書店など。第1回現代龍馬学会では「書簡に見る龍馬の心」を発表（紀要第一号に収録）。

「龍馬における自由平等思考」

郷土坂本家9代目 坂本登

坂本 登（さかもと のぼる）1937年、北海道広尾町下野塚生まれ。明治大学工学部卒業。父親は農民画家・坂本直行。防災設備会社社長、メンテナンス会社役員などを経て現在は東京の坂本事務所で業務、後進指導にあっている。現代龍馬学会顧問。

「讃岐と龍馬 顕彰碑の建立」

讃岐龍馬会塩飽社中事務局長 野藤等

野藤 等（のとう ひとし）1950年香川県丸亀市生まれ。高知大学教育学部を卒業後、香川県下の公立中学校の教師として35年間勤務。平成23年末中学校校長を定年退職。現在讃岐龍馬会塩飽社中の事務局長を務める。

「私と龍馬さんと梶原のこと」

記念館カルチャーサポーター 橋詰明仁

橋詰 明仁（はしづめ あきひと）記念館カルチャーサポーター。1961年梶原町生まれ。1979年四国電力株式会社入社。平成3年「よんでん歴史探求会」を設立。市や記念館が主催する「脱藩の道ツアー」のガイドを務める。現在四国電力高知支店勤務。

「龍馬の生まれ育ったまち」

龍馬の生まれたまち記念館学芸員 上野麻衣

上野 麻衣（うえの まい）1979年高知市生まれ。高知学芸高等学校卒業、昭和女子大文学部日本文学科卒業。高知市立自由民権記念館、高知市民図書館などの臨時職員を経て、2008年4月より、高知市立龍馬の生まれたまち記念館学芸員として勤務。